

21世紀の北海道 港湾ビジョン

概要版

平成14年4月

北海道開発局
港湾空港部

四方を海に囲まれた北海道は、経済活動や生活に必要な物資について、海外との輸送のほとんどを、また本州等との国内輸送の90%以上を海上輸送に依存しており、その拠点である港湾の役割は大きなものがあります。また、北海道の港湾は、農業をはじめ工業や水産業などの地域産業の拠点、観光拠点、離島の生活拠点等として地域にとって重要な役割を果たしております。

現在、海上輸送は、大量輸送、高速化、ユニット化が進んでおり、北海道の港湾もこうした変化に迅速に対応していく必要があります。また、リサイクル産業、風力発電、海洋深層水利用等新たなニーズへの対応が港湾に求められるとともに、火山噴火や地震等の災害に備えた防災拠点としての役割を担うことが求められております。

また、北海道経済が低迷を続けるなか、地域の活性化を図る上で、様々な取り組みが求められており、港湾を核とした地域振興が従来にも増して必要となっております。

なお、港湾施設は、建設に着手してからその機能を発揮するまでに多くの時間を要することから、長期的な視野に立ったの取り組みを進める必要があります。

平成7年、旧運輸省港湾局により、全国の長期的な港湾政策として「大交流時代を支える港湾」が策定されたのを受けて、北海道開発局港湾部は、北海道の長期港湾政策「個性的なみなとまちの創造」を策定しました。

それから約5年が経過して新しい世紀を迎えるにあたり、21世紀における港湾の姿あるいは港湾の果たす役割を示すため、国土交通省港湾局により「暮らしを海と世界に結ぶみなとビジョン」が平成12年末に策定されました。

北海道地域においても、近年の港湾を取り巻く情勢には大きな変化があることから、北海道開発局港湾空港部では、新たな時代における港湾の役割と長期的な展望を示す「21世紀の北海道港湾ビジョン」を策定することとしました。なお、本ビジョンでは、おおむね10～15年後の北海道港湾の将来像を示すことを目標といたしました。

本ビジョンの作成にあたっては、道内各港湾管理者の方々と、北海道港湾連絡会議やその後のとりまとめの段階毎に十分な意見交換を行うとともに、学識経験者、有識者、関係行政機関で構成される懇談会を2回開催し、幅広い観点から検討いただきました。さらに、広く様々な方からのご意見を伺うため、パブリックコメントを実施いたしました。

本ビジョンが、日本の暮らしと北海道の自立を支え、先導的な役割を果たす北海道港湾の実現に向けての指針となれば幸いです。

最後に、本ビジョンの作成に当たり貴重なご意見をいただきました、懇談会の委員の皆様、港湾管理者の皆様、そして、パブリックコメントをいただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。

「21 世紀の北海道港湾ビジョン」構成

北海道を取り巻く環境

- (1) 経済・財政
 - ① 全国に対し低い経済成長率
 - ② 財政状況の悪化(国、地方自治体)
- (2) 地域・人口
 - ① 札幌への一極集中と
152市町村の過疎指定
 - ② 広大な面積と地域分散型社会
 - ③ 全国よりも高い高齢者人口比率
- (3) 産業
 - ① 1次・3次産業割合の高さと2次
産業割合の低さ
 - ② 全国に占める割合の高い、農業、
水産業、製紙業
- (4) 自然・災害
 - ① 全国に占める割合の高い国立・
国定公園の面積
 - ② 厳しい気象条件
 - ③ 大きな被害を伴う災害の多発
- (5) 交流
 - ① 観光入込み客数の増加
 - ② 地理的に近い北東アジアとの人や
物の交流の活発化

北海道港湾をめぐる情勢

1. 海上輸送のユニット化とサービスの高度化
2. 多様化する港湾機能
3. 環境や景観への配慮
4. 安全・安心な暮らしへの配慮
5. 港湾行政の新たな枠組み

北海道港湾の基本的役割

1. 日本の暮らしを支えます
2. 北海道の自立を支えます
3. 新世紀の日本と北海道を先導します

基本目標

1. ネットワーク機能の強化
2. 地域の活性化と個性の発揮
3. 暮らし・自然・景観との融合
4. 安全・安心な暮らしの実現

北海道港湾の目指す方向

- | | | |
|--|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワーク機能の強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) アジアや北米と結ぶ国際コンテナ輸送
対アジアとのコンテナ輸送ネットワーク
の強化
国際コンテナ中継基地構想 (2) 本州と結ぶ内貿ユニットロード輸送
ユニット貨物輸送ネットワークの強化
拠点ユニットターミナルの機能強化
T S L 就航への対応 (3) 道内各地と結ぶ (4) 使いやすい港湾
港湾の情報化、24 時間フルオープン化の
推進
荷役の安全性の確保
港湾施設の維持・更新 (5) 北東アジアとを結ぶ
北東アジア地域との交流
北方四島とを結ぶ | <ol style="list-style-type: none"> 2. 地域の活性化と個性の発揮 <ol style="list-style-type: none"> (1) 産業の活性化
多目的国際ターミナルの拠点配置
サハリンプロジェクトへの対応
臨海部リサイクル拠点の形成
水産支援基地の形成
地域産業の活性化 (2) 地域の個性の発揮
にぎわい・交流空間と地域情報拠点
機能の形成
旅客船ネットワークの形成
海を活用した地域振興策の推進
海洋性レクリエーションの振興 (3) 北海道の気象・海象特性を活かす
積雪寒冷の克服
積雪寒冷の利用 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 暮らし・自然・景観との融合 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくりと一体となった港湾空間 (2) 生物環境、自然環境と調和した港湾空間 (3) 快適な港湾空間
港湾施設へのユニバーサルデザインの
導入
景観に配慮した港湾空間 (4) 愛着のもたれる港湾空間 4. 安全・安心な暮らしの実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 離島の生活を守る
離島生活の安定性向上
離島産業の振興
離島生活の安全確保 (2) 災害時の物流確保 (3) 自然災害に備える
地震災害に備える
津波災害に備える
火山噴火などの災害に備える (4) 海上における災害・避難への対応
大規模油流出対策
避難船対策 |
|--|--|---|

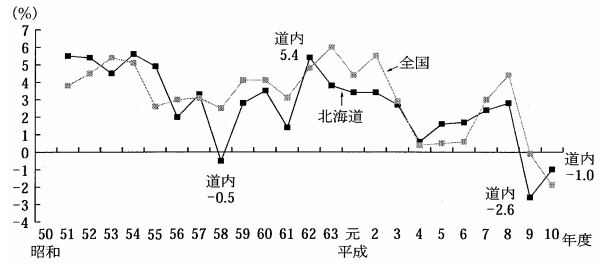
目標達成に向けて

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 各港湾の役割と連携の強化 <ol style="list-style-type: none"> ① 道央圏重要港湾 ② 重要港湾(道央圏以外) ③ 地方港湾 (2) 多様な主体との連携 <ol style="list-style-type: none"> ① 港湾管理者及び地方公共団体等との連携 ② 市民・NPO等との連携 | <ol style="list-style-type: none"> ③ 事業者間の連携 ④ 民間事業者との連携 (3) 港湾振興への取り組み (4) 投資の重点化、効率化、整備効果の明確化 (5) 既存ストックの効果的な活用 (6) 技術開発の推進 (7) 段階的整備の推進 |
|--|---|

I 北海道を取り巻く環境

経済・財政

全国に対し低い経済成長率
財政状況の悪化（国、地方自治体）

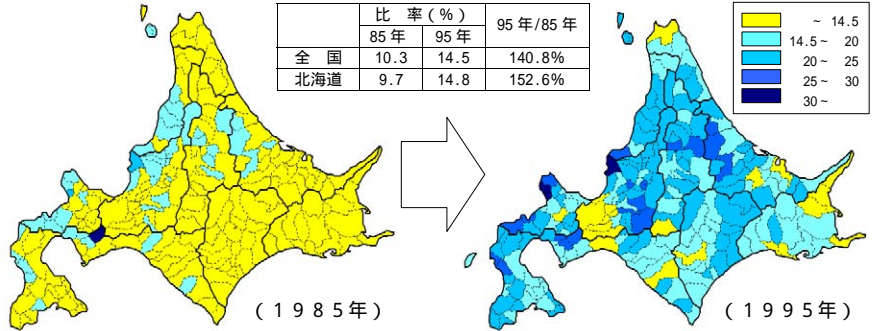


	51~55	56~60	61~2	3~7	8~10	51~10
北海道	5.2	2.1	3.7	1.6	▲0.5	2.8
全国	4.5	3.3	4.9	1.2	0.7	3.4

実質経済成長率の推移

地域・人口

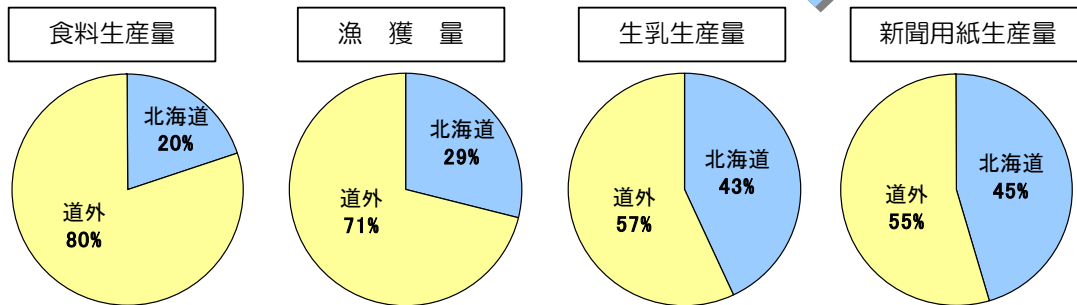
札幌への一極集中と
152市町村の過疎指定
広大な面積と地域分散
型社会
全国よりも高い高齢者
人口率



65歳以上の人口比率

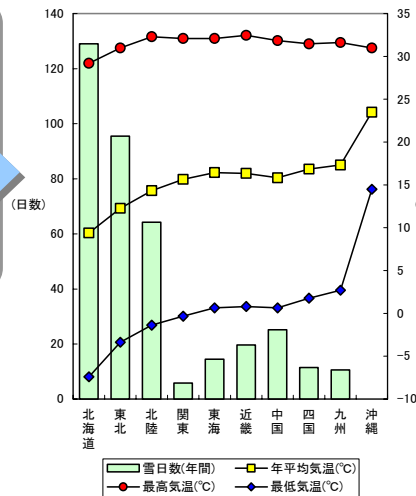
産業

1次・3次産業割合の高さと2次産業割合の低さ
全国に占める割合の高い、農業、水産業、製紙業



自然・災害

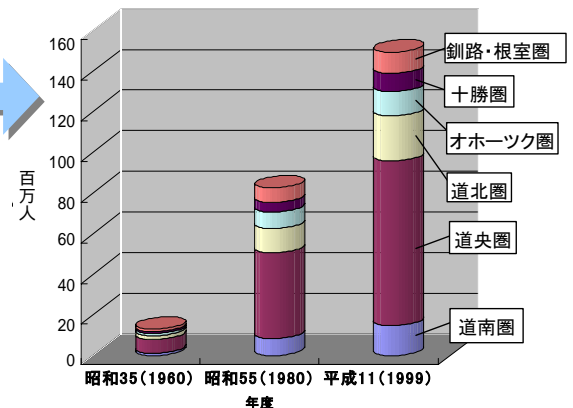
全国に占める割合の
高い国立・国定公園の
面積
厳しい気象条件
大きな被害を伴う災
害の多発



北海道と全国の気象状況

交流

観光入込み客数の増加
地理的に近い北東アジアとの人や物の
交流の活発化



観光入込客数の推移

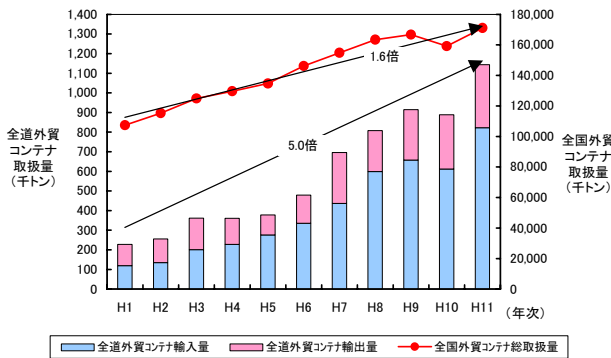
【用語メモ】

北東アジア：このビジョンではロシア極東地域、中国東北三省、モンゴル、北朝鮮、韓国、日本の6地域を示す

II 北海道港湾をめぐる情勢

1. 海上輸送のユニット化とサービスの高度化

北海道港湾では、近年、国際物流においてコンテナ取扱貨物量が急増し、国内物流についても全国と比較してユニット化された貨物の割合が高くなっています。また、ジャストインタイム、輸送時間短縮、コスト縮減、情報化などといったサービスの高度化が求められています。



増加する北海道の外貿コンテナ取扱量

2. 多様化する港湾機能

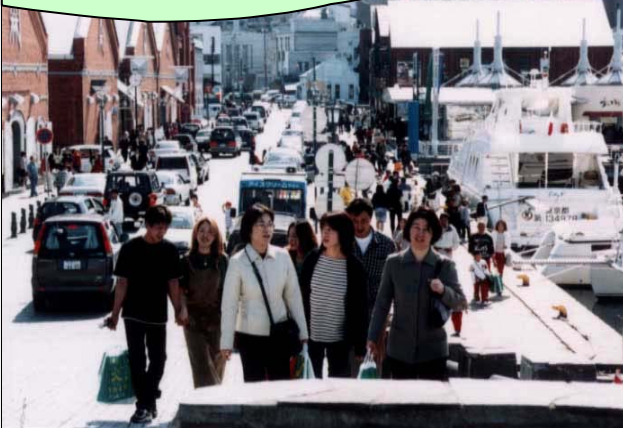
北海道の港湾を中心とした臨海部においては、近年、地域の観光スポットとして、毎年多くの観光客が訪れています。また、広大な用地を活用したりサイクル拠点、クリーンエネルギー基地といった地域の活性化をもたらす新しい利用が進展しています。



室蘭港（祝津絵鞆地区緑地）

3. 環境や景観への配慮

北海道の豊かな自然環境や街の歴史を健全な状態で次世代に継承するため、港湾環境の維持・回復や創造に対する取り組み、景観への配慮など、暮らしと海そして港湾との新たな関係が求められています。



函館港（赤レンガ倉庫群）

4. 安全・安心な暮らしへの配慮

北海道では、近年、有珠山の噴火や釧路沖地震、南西沖地震等の暮らしを脅かす大規模災害が多発しており、道民の安全や離島の島民等の安定な暮らしを支える防災拠点機能が求められています。



有珠山の噴火状況

5. 港湾行政の新たな枠組み

北海道港湾の多くは市町村が港湾管理者となり、みなどづくりとまちづくりとを総合的に進めてきました。今後、地方財政がますますひびくする中、近年の国と地方の役割分担の見直しや、広域行政、市町村合併への動きを踏まえ、港湾行政の新たな枠組みの構築が求められており、港湾管理者の主體的な選択と競争、積極的な交流と連携が従来にも増して重要となります。

【用語メモ】

ジャストインタイム：顧客への配達時間を指定した輸送方式

ユニット化：荷物をまとめてコンテナやトレーラー等で効率的かつ安全に輸送する方式

Ⅲ 北海道港湾の役割

基本的役割

1. 日本の暮らしを支えます

- 例えば...
- ・我が国の食料供給基地である北海道の食料輸送の拠点としての役割
 - ・良好な自然環境が活かされた北海道観光の玄関口及び海の観光拠点としての役割

2. 北海道の自立を支えます

- ・物流効率化による道内経済の活性化
- ・物流拠点を有する魅力ある産業空間の提供
- ・地域の個性を活かした空間形成による地域の活性化

3. 新世紀の日本と北海道を先導します

- ・広大な臨海空間を活用したリサイクル産業などの新たな産業展開を先導
- ・地理的条件を活かして北東アジア地域と日本との国際交流を先導

Ⅳ 基本目標

基本目標

1. ネットワーク機能の強化

国内、国外、内陸などの各方面とを結ぶネットワーク機能の強化された港湾を目指します。

- どうなる...
- ・北海道の産業の発展に貢献するとともに、日々の暮らしに必要な物資の確保が効率的、安定的に行えるようになります。
 - ・北海道で生産される野菜、魚介類、生乳などの食料品や新聞用紙などが安定的に、日本国内に供給されるようになります。

2. 地域の活性化と個性の発揮

魅力ある北海道やその海辺の特性を活かしつつ、各地域の活性化や個性の発揮を支援する港湾を目指します。

- ・各地域の特色を活かした産業が活性化され、地域経済の向上、雇用の確保につながります。
- ・北海道の個性を活かすことにより、先導的なプロジェクトが推進されます。
- ・国民に人気のある北海道観光を快適に楽しめるようになります。

3. 暮らし・自然・景観との融合

人々の暮らし、自然、景観と一体となった快適で愛着のある港湾を目指します。

- ・水辺や歴史とふれあう機会が増加するとともに、自然環境や景観が向上し、より快適なみなとまちになります。

4. 安全・安心な暮らしの実現

災害の多発する北海道において、道民の安全で安心な暮らしを支援する港湾を目指します。

- ・地震・火山噴火・油流出事故などの災害時への備えが充実し、安全・安心度の高い暮らしができるようになります。
- ・災害時においても本州との物流を安定的に確保できるようになります。